

1 馬のいる場所にでかけよう

馬具、馬の手入れ道具、乗馬用品を紹介します。

馬具

人が馬に乗りやすくするためや馬に合図をしやすくするため、馬の体につけるさまざまな道具が工夫されています。活動に合わせ、道具を選びます。馬にこれらの道具をつけることを「馬装をする」といいます。

◆鞍（くら；「サドル」）

→人が馬に乗るときに馬の背中に着けて使う道具です。「腹帯^{はらおび}という人間のベルトのような道具で馬の体にしっかり固定されているので、人が安心して座ることができます。用途によってブリティッシュサドル（さらに馬場用、障害用、総合用に分かれます）、ウェスタンサドル^{けいじょうあん}、軽乗鞍^{けいじょうあん}などの種類に分かれています。



▲ブリティッシュサドル



▲ウエスタンサドル



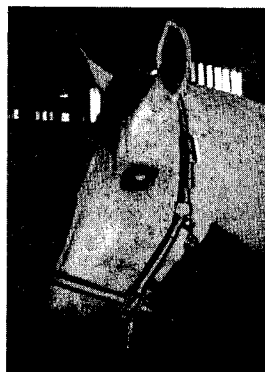
▲軽乗鞍

◆勒（「頭勒」ともいいます）

→乗馬の際、馬の顔に取り付けて使う道具です。複数の革製ベルトで構成されており、馬が口の中にくわえている「ハミ」を、そこに繋がれた「手綱^{たづな}」で操作することにより馬に動き方の合図を送ることができます。大きく「水勒^{すい}」と「大勒^{たいりく}」という2つのタイプに分かれています。



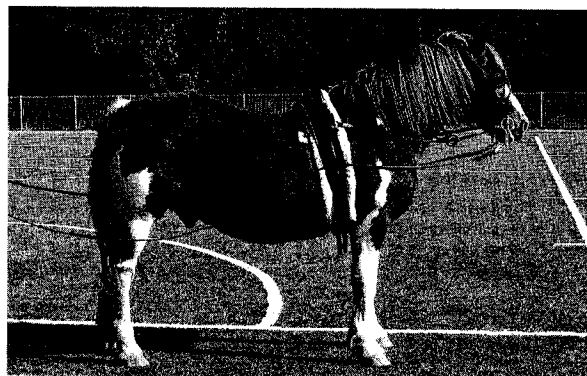
▲勒



▲無口頭勒

◆無口頭勒

（単に「ムクチ」、また「おもがい」ともいいます）
→馬房から馬を連れ出すときや、手入れをするため洗い場に繋ぐときなどに、馬の顔につけて使う道具です。「勒」と違い、口の中に入れる「ハミ」が無いため無口と呼ばれます。無口に「引き手綱」を付け馬を誘導します。



▲軽乗鞍の馬装



▲ブリティッシュサドルの馬装

手入れ道具

調 整 編

乗馬クラブでは数多くの道具を使いわけて、毎日馬の体をきれいに維持しています。場所により使う道具は多少異なりますが、ここでは一般的に用いられている道具を紹介したいと思います。手入れのやり方は21、22ページに示しましたが、馬の汚れ具合や皮膚の敏感さによっても道具を使い分けますので、実際に手入れをするときにはやり方をスタッフによく教わりましょう。

◆根ブラシ

→馬の体にこびりついた大きな泥やオガ・わらなどの汚れを落とすブラシです。



「毛ブラシ」よりも毛足が長く、弾力があるものになります。

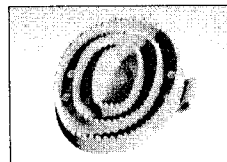
◆毛ブラシ

→馬の体に着いたホコリや垢をはらい、毛並みを整える毛製のブラシです。「鉄(金)ぐし」と組み合わせて使います。



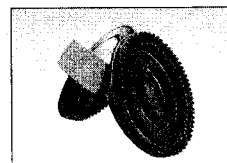
◆プラスチックブラシ

→馬の体についた乾いた泥やホコリを取り除いたり、毛の中の汚れを浮き立たせるために使います。



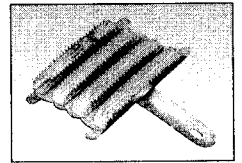
◆ゴムブラシ

→毛の中のフケを浮かせたり、乾いた泥などの大きな汚れを取り除くために使います。



◆鉄(金)ぐし

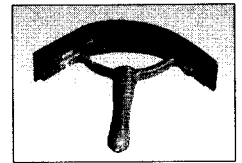
→毛ブラシにこびりついた汚れをそぎ落とすための、ギザギザがついた道具です。



直接馬体には使わないでください。

◆汗こき(「水切り」とも言う)

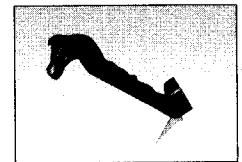
→馬が汗をかいたときや全身を洗ったとき、馬体の水気をかき取る道具です。T字



型やスティック状など様々な形状があります。

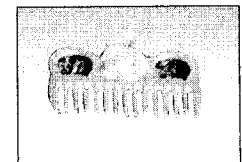
◆鉄ピ(「裏掘り」、「蹄掘り」とも言う)

→蹄の裏にはまり込んでいるボロや泥、砂を取り除くための道具です。かぎ状になっているので効率よくかき出すことができます。ブラシ付きの使いやすいタイプもあります。



◆くし

→たてがみ、まえがみ、しっぽなど馬の長い毛を整えるために使います。金属製、プラスチック製などがあります。



◆蹄油

→蹄の乾燥を防ぎ、適度な弾力性を保つために蹄の裏表に塗る油です。蹄の状態によって塗り方が異なるのでスタッフにどのようにするか聞いてからハケで塗りましょう。油ではなくクリーム状のものを塗るところもあります。

1 馬のいる場所にでかけよう

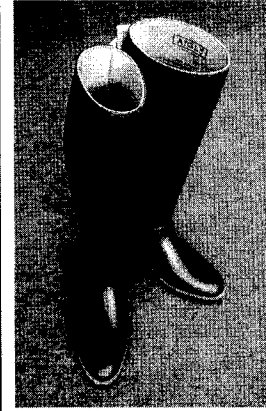
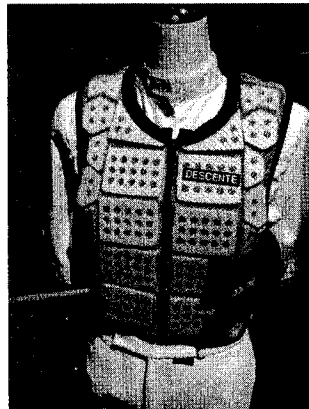
乗馬用品

乗馬用品

乗馬は、自分よりも大きな馬という動物と一緒に
 うスポーツという側面をもっています。ですから、動
 きやすいとともに、不慮のでき事からからだを守る服
 装や装備が大切です。ここでは、一般の乗馬をする際
 の洋品を紹介します。ヘルメット、プロテクターそし
 て手袋は、思わぬけがなどに備える身体を守る安全の
 ためのものです。キュロットとブーツは、騎乗しやす
 いものであるのに加え、鞍や馬の胴体との間に生じる
 摩擦から足の内側を守ります。ブーツは、騎乗の時に
 拍車を付けることができるように作られています。ま
 た、砂のある馬場、水を使う洗い場でブーツは大変役
 立ちます。

(深野 聡・中川 剛)

なお、このガイドブックでは、ヘルメットをかぶら
 ないで馬に乗る活動を行っている事例を多く紹介し
 ています。このような活動は、適性のある非常に良
 く調教された馬、馬を十分に制御できる専門家、こ
 の領域に精通した指導者、そして馬が落ち着いて活
 動できる環境といった条件が整っていることによっ
 てはじめて可能です。通常は乗馬のときにヘルメッ
 トを着用する必要があります。それぞれの場のスタ
 ップの指示に従って安全に留意した活動を心がけま
 しょう。



	ヘルメット
プロテクター	手袋
キュロット	ブーツ

